

「梶原塚」整備作業始まる

菅野町有志 9月例祭までの完了目指す

「梶原塚」の整備作業を協力して行った菅野町の有志



ても現在地移設後50年が経ち、梶原塚を再生させたいとの機運が高まった。梶原塚の保存修復とともに、塚が有する「報恩」の意味を後世に伝えていく場として再整備し、町の観光の一翼を担うことを目指す。

梶原塚は、諏訪大社下社大祝の金刺盛澄が、命を救ったために建てたと伝わる。明治になり石碑が建てられ、1905年の中央線開通のため駅構内（現在の四王のガード付近）にあった石碑が菅野町旧公会所に移された。41年、公会所移転に伴い現在地に移った。

整備では、石碑の修復のほか、土台の改修、フェンスの設置、標柱の交換、案内板の改修と案内チラシの設置などを計画。9月後半の例祭「梶原祭」までに、整備を完了させる予定。

初日の作業に参加した麻川こずえさん(45)は「地域の人々が伝統を守っていくこうと行動するのは素晴らしいこと。梶原塚を見守ってきた地域の人の思いを実感できた」と話した。同委員会の中島寛次委員長は「梶原塚がこの先50年100年と守られていく整備を

したい。訪れた人が景時の人物像や感謝の気持ち、人への思いやりを感じる場にしてほしい」と思いを語った。

下諏訪町の菅野町有志でつ

くる「菅野会館維持検討委員会」は25日、町内会に伝わる、鎌倉幕府の御家人・梶原景時(未詳、1200年)を祭る石碑「梶原塚」の整備作業を

始めた。今年度の町の補助金「地域の活力創生チャレンジ支援金」に採択された事業。初日は住民約20人が参加し、御柱休めや植栽の移動などを行った。

昨年、NHKの大河ドラマで源頼朝を支える有力武将である景時を俳優中村獅童さんが演じたことで梶原塚が再注目され、歴史好きや観光客らの訪問が増えた。町内会とし